

事業所名		放課後デイサービス暖母多の津II		支援プログラム(参考様式)		作成日		8年 2月 20日	
法人(事業所)理念		<p>【法人理念】 安心して利用でき、「心の支え」「豊かな生活の支え」を理念とし事業運営おこなう。 【事業所理念】 児童福祉法に基づき、5領域(健康・生活/運動・感覚/認知・行動/言語・コミュニケーション/人間関係・社会性)を相互に関連づけ、支援を行う。 (放課後デイサービス・保育所等訪問事業・居宅訪問型児童発達支援事業)</p> <p>【支援目的】 発達支援とともに、自己効力感(自分ではできるという感覚)の育成 子どもの主体性を尊重し、「できないことの改善」ではなく「できる方法を共に見つける支援」を基本とする。</p>							
支援方針		<p>【多機能型事業所としての特徴を活かした、地域とともに育つ支援の提供】 私たちは、事業所の中だけでなく、家庭・園・学校・地域の中で子どもが安心して過ごせるように</p> <ol style="list-style-type: none"> ① 子どもが安心して育つ地域(環境)を ② 保護者が孤立しない支援体制を ③ 専門性とあたたかさの両立を ④ 事業所完結型ではない支援を目指します 							
営業時間		平日:10:00~19:00 土祝・学校休業日:9:00~18:00			送迎実施の有無		あり なし		
本人支援	健康・生活	<p>【生活の安定と自己調整力の向上】 「安心して過ごす力」を育む支援 ①安心してできる環境設定 ②生活リズムの安定支援 ③身辺自立への段階的支援 ④クールダウン方法の習得 ▶ 個別活動での自己調整支援:「困っても戻れる」 ▶ 集団活動での役割参加:自分で少しは調整出来る</p>							
	運動・感覚	<p>【身体機能の向上および感覚特性への適応】 「自分の体を心地よく使う力」を育む支援 ①感覚特性への配慮(音・光・触覚など)②体を使った遊びや運動活動 ③姿勢保持やボディイメージの支援 ④クッキングや工作などの微細運動 ▶ 小集団での運動ゲーム ▶ 大集団でのイベント活動</p> <p>「自分の体を使える」という感覚 ①感覚過敏や不器用さを否定しない ② 成功体験を積む ▶ 「やってみたらできた」 ▶ 「体を動かすのも悪くない」</p>							
	認知・行動	<p>「考える力」「工夫する力」「考えれば工夫できる」という感覚を育む支援 ①見通しを持てる環境づくり ②手順の視覚化 ③困り場面の振り返りと工夫探し ④成功体験の積み重ね ▶ 1対1での課題整理 ▶ グループでの取り組みによるルールの有効性 ▶ やってみたら出来た(教科学習)</p> <p>※失敗=能力不足ではなく、工夫不足・経験不足と伝える。「次はできるかもしれない」「方法を変えればいい」</p>							
	言語コミュニケーション	<p>「伝える・受け取る力」と「伝えればわかってもらえる」という感覚を育む支援 ①気持ちの言語化支援 ②SST(ソーシャルスキルトレーニング) ③相手の話を聞く練習 ④適切な表現方法の練習 ⑤ 伝える経験が成功体験 ▶ 少人数での対話練習 ▶ 大集団での役割発表 ▶ 「言ってみてよかった」 ▶ 「自分の気持ちは大切にされる」</p>							
	人間関係社会性	<p>「自分はこの場においていい」と思える感覚と力を育む 役割体験・協力体験を通して存在価値を実感する支援 ①仲間との協力体験 ②年齢をこえた関わり ③役割を持つ経験 ④自己肯定感の育成 ⑤「自分がいて成り立つ」「仲間とならできる」感覚 ▶小集団での役割付与 ▶大集団での参加機会 ▶成功場面の共有</p>							
家族支援	<p>【保護者が「ひとりで抱えない・家庭が安心できる土台であることを大切に】 ● 個別面談(定期・随時) ● 家族支援加算対象の専門的助言 ● 家庭での対応方法の共有 ● きょうだい支援の視点 ● トラウマ・不安傾向への理解支援 ● 緊急時対応フローの共有 【保育所等訪問支援と情報共有】 【居宅訪問型児童発達支援で家庭環境に即した助言】 子どもの自己効力感を育み、保護者の自己効力感とつなげる。 「この子は育っている」「私の関わりで大丈夫」の感覚を一緒に育てる ※ 保護者の長期的な心の安定につなげる</p>			移行支援		<p>環境の変化を“安心できるステップ”にする ● 事前の環境見学・情報共有 ● 引き継ぎ書の作成 ● 本人への視覚的説明 ● 保護者への不安軽減支援 ● 必要に応じた同行支援 ▶ 保育所等訪問支援による学校移行支援 ▶ 居宅訪問型児童発達支援による家庭内準備支援 「突然の変化」にしないことを大切に</p>			
地域支援・地域連携	<p>【子どもが「地域の一員」として育つ支援】 ● 学校・園とのケース会議 ● ICF視点での情報共有 ● 将来の夢や職業をイメージする ● 医療機関・相談支援専門員との連携 ● 地域資源(公共施設・イベント)への参加 ● 地域ボランティアとの交流 ▶ 保育所等訪問支援での現場支援 ▶ 支援方法の統一と環境調整</p> <p>「事業所ではできない」を「どこでもできる」へつなげます。</p>			職員の質の向上		<p>成功体験を構造化する ● 小さな達成を言語化する ● 役割を持たせる ● 失敗を学びに変える ● 過程を評価する同法人事業所全体での研修参加(事例検討会) 全国児童発達支援協議会研修参加 NPOポータル協会研修参加 こども家庭ソーシャルワーカー認定資格修得予定 保育士資格の積極的修得 その他必要な研修参加 コミュニケーションスキル 相談援助技術研修</p>			
主な行事等	夏祭り・お花見・果物狩り・親子ボウリング大会・就労事業所見学会・農業体験会・就労体験・芸術関係機関の見学や体験活動・子ども会議(定期的)								